

ソフトTQCへのアプローチ 経営科学読本

日科技連出版社 昭和61年4月 402ページ 定価 5200円

本書を読んで、社会の諸現象を科学的思考にもとづいてマネジメントすることの必要性が大変高く、意義深いことをあらためて認識した。企業経営という複雑で、ファジィな現象を科学的に認識し、分析することが有効な場合は、一見少なく思っても経営科学の基本的考え方に立ち返って見直すならば非常に多く存在することを実感した。さらに経営科学は人間のかかわる実学であり、日常の科学であると著者が指摘するように、経営科学の考え方を身につけることによって、日常の経営のなかから、もっと多くの重要な問題を発見し、解決してゆくための基礎的考え方をうることができると感じた。

本書は、〔経営という共通の場を対象とした諸科学の統合としての経営科学〕の基本的考え方が実に簡明にわかりやすく論じられており、読者の理解を高めるために豊富な図表が本文に折り込まれている。また各章の終りには現実の社会問題、最近の話題を例にして示し、その章の基本的考え方が自然に身につくように配慮されている。さらに各章の終りには練習問題がついており、各章の理解の程度を自分で確認できるように構成されている。

このように読者の理解を助けるためにいろいろな配慮がなされているが、本書の内容の特色は経営科学諸分野の考え方に対する著者の深い洞察と読者にそくした適切な解説にあるが、科学技術政策の変遷、アカデミック・フリーダムの必要性、硫黄島の激戦経過の理論的研究が論じられており、広い視野が読者に与えられるというのも、もう1つの特色である。

本書は10章で構成されている。以下にその概要を示す。

1. 経営の科学。この章では、経営科学の位置づけおよび問題解決のための基本的考え方としてサイバネティクス、システム思考、数学モデルについて論じている。
2. ORとQC。この章では、TQC、OR、IE、SEの由来、考え方の特徴を示し相互の比較を行なっ

ている。

3. 数学モデル。この章では、数学モデルの例をもとに分類を行ない、モデルの作り方を具体的に示している。

4. 新製品開発。この章では、新製品開発に必要な創造性開発およびそのための技術としての価値分析、PERT、CPMの考え方について論じている。

5. 情報処理。この章では、コンピュータ、情報化の歴史、シミュレーションについての考え方が論じられている。

6. 最適化法。この章では、数理計画法としての意思決定法が論じられている。

7. 品質保証。この章では、品質保証のための考え方、安全性、人間工学、リスクについて論じられている。また原子力安全性評価の問題や日本航空機の事故など身近な問題がとりあげられている。

8. マーケティングと在庫管理。この章では、マーケティングの基本となる考え方とその分析方法の紹介をしている。さらにマーケティングに関係の深い分野として流通、需要予測、在庫管理などの手法の解説がなされている。

9. ゲームの理論。この章では、孫子の兵法、ミニマックス戦略、コンバット・モデルについて論じられている。この一部にランチェスターの法則により歴史に有名な戦争の戦略がなぜ優れているかの解釈が与えられている。

10. 発展的経営科学。この章は、過程的決定計画図としてのPDPCの考え方の特徴およびその方法について述べるとともに経営科学の諸方法の実施法、経営に必要な先見性、経営診断の方法などについての要点が示されている。

以上のように本書は経営科学の理解を学問的かつ実践的に深めることを望む方は、学生、社会人、研究者、学者の区別なく一読に値する書物であろう。

(山田善靖 産業能率大学)